

評価委員会総合評価

研究課題名：温暖化による日本付近の詳細な気候変化予測に関する研究

評価委員

委員長：田中正之

委員：小室広佐子、中島映至、松山優治

評価年月日：平成19年 3月23日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 継続 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

地球温暖化は現在の社会における最大関心事の1つである。特にわが国周辺にどのような影響が現れるのかという不安を多くの国民は持っている。本研究課題は社会的な要請が強いものであり、本研究の成果に対する期待はことに大きいものがある。

限られた人数の中で、本研究課題は着実に研究が進められており、中間評価時の目標を十分に達成し、ほぼ計画通りに進んでいると判断する。多くの大気、海洋分野の研究者がいる気象研究所内の連携がうまく働いている結果であろう。開発しているモデルには、いくつかの問題点があるようだが、それについての認識および改良方針も適切なものである。各部署間の連携を引き続き密にし、今後も提案されている研究計画を効率的に進めていくことを期待する。

なお、開発しているモデルは複雑なシステムであり、困難な面も多々あると思う。計算結果と観測との差の大きい部分については、理由を十分に理解しながら進めてほしい。また、エーロゾルについては近年、さまざまな知見が増えているので、それらを十分に取り入れること、水蒸気や雲の量・状態の予測には引き続き工夫をこらすこと、海洋モデルを大気モデルと対等なレベルになるまで精査することを望む。氷床モデルの開発については、基礎から地道に進めていってほしい。物質、植生のモデリングについては、環境省・地球環境フロンティア・大学が共同で開発しているモデルのほうが進んでいるところがあり、研究機関同士の連携、情報交換を行って、モデリングの開発速度を日本全体としても上げてほしい。この分野の世界の進み方は非常に速く、世界に後れをとらないためには研究機関同士の連携が不可欠である。